

トピックス

★ 第8回講義報告：学業と仕事は何が違うのか？

★ 第2回ワークショップ：
博士人材、インターンシップで活躍する



国立大学法人
東京海洋大学・キャリア開発室
電話：03-5463-0575
Email：career@m.kaiyodai.ac.jp
http://www.kaiyodaicareer.com/

※このNewsletterは、東京海洋大学キャリア開発室が作成・配信しています。
キャリア開発に関するイベントのお知らせや活動報告等をお届けしています。

● 第8回 高度専門キャリア形成論が開催されました

企業が求めるコミュニケーション・チームワークとは！

詳細はHPで

平成27年12月17日(木) 16:20～17:50 於 品川キャンパス 白鷹館2F

～ 学生から社会人へ、学業と仕事は何がどう違うのか？ ～

塩谷和美 特任教授（キャリア開発室）

✿ 企業はチームで働く力を求めている

新入社員には、即戦力ではなく3～5年後の「伸びしろ」に期待している。まずは、組織の中で仲間と一緒に仕事ができることが必要。あまり焦らず、先輩たちから教わって、仕事を覚えることに注力すれば良い。そのために、「挨拶・お礼・お詫び」の3つを大切に、朝は必ず明るく挨拶すること。そして、報・連・相はメールではなく、顔を見て口頭で行うことが大切だ。



✿ 職場の人間関係がストレスの一番の原因

コミュニケーションは自分と相手の関係であり、自己主張だけではない。相手の立場に立って、相手の感情に共感できれば、信頼感と関係性を深めることができる。人は会って話をするのが大切であり、言葉と思考と行動は連動している。

✿ 失敗を恐れず色々なことに挑戦してT型人間になって欲しい

与えられた仕事を一生懸命にやること。仕事に役立たない人生経験は何一つ無い。むしろ、企業では人生経験をした人を求めている。



◆ キャリア開発室の活動内容、最新情報、各種パンフレットや申請書等はホームページから…

◆ メールアドレスを登録すると、講義日程・内容等をメールでお知らせします。
ホームページから登録できます。 <http://www.kaiyodaicareer.com/>



● 平成27年度・第2回 ワークショップが開催されました

詳細はHPで

博士人材、インターンシップで活躍する

平成28年1月22日(金) 16:20～17:50 於 品川キャンパス 白鷹館2F

～ 海洋生物研究に懸ける民間企業の社会的使命 ～

小山利郎 氏 (株)日本海洋生物研究所 取締役社長

✿ 仕事を通して、その人を様々な角度から、時間を掛けて見ることができる良い機会だった

会社の中で、自分が突き詰めたい研究だけをやろうとしても無理があり、多くは受注した研究をすることになる。しかし、受注した研究でも、将来の為に自主研究をすることはできる。

博士人材の担う役割は、必ずしも自身の専門性だけではない。特に博士には、研究過程で培ったノウハウ、並びにチャレンジする意欲や好奇心等を前面に出してみ、良い成果を出すことを期待している。



～ 海洋生物の調査研究と私のキャリア ～

高木香織 氏 (株)日本海洋生物海洋生物研究所外洋域研究センター 主任研究員

✿ 研究が面白くなり、内定を辞退して博士課程に進んだ

学位取得後は、水総研でポスドクをすることになったが、次第に安定的な雇用を求めるようになった。

民間企業とはいえ、顧客に迎合したり、営業をしなければならないということはあまり無かった。また、年間計画に沿って活動するのではなく、入って来た仕事を顧客の要求に合わせて、皆で協力して結果を出していく。

大学や研究所で培った様々な経験や調整力は、今の仕事にも役に立っている。そして、それがキャリアの武器になっていく。



長期インターンシップの報告

陳 放さん 博士(海洋科学) 研修先：漁船保険中央会

✿ 中国では英語翻訳を専攻したが、別の専門分野を勉強しようと海洋大の博士課程前期・後期に進学した

実務に携われたことで、業務の関連性や制度等についてより深く理解でき、研究についての新たなアイデアも生まれた。一方、社員の方が真面目に仕事に取り組む姿や集中力の高さは、自身に大きな影響を与えた。

学生時代にした全てが自分の能力向上に繋がりと、今後のキャリアに活用することができると感じた。

小林美樹さん 博士(海洋科学) 研修先：(株)日本海洋生物研究所

✿ 自分が本当にやりたいこと、できることは何か？を知りたかった

民間企業での職場の雰囲気も体感してみたかった。そして何より、自分自身を見つめ直す機会にしたかった。

研修に参加したことで、自分は生き物が好きで、これからは環境に貢献できる仕事に関わっていきたいという気持ちに気づくことができた。また、仕事に関しても、これまでは専門を活かすことに固執していたが、実際の業務では広い視野で見ることが求められていると分かった。

